
「第14回・15回特発性心室細動研究会」特集号発行にあたって

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) 代表幹事
筑波大学医学医療系循環器内科教授
青沼和隆

特発性心室細動研究会 (J-IVFS) が 17 年の歴史を誇る研究会に成長することができましたのは、第一に幹事の先生方をはじめ、本研究会を支えていただいている皆様のおかげであると、本研究会を主宰する一人として厚く御礼申し上げます。

本研究会は、現在も全国 69 施設にご協力いただき、全体で 750 余りの症例が登録され、世界で最も多くの症例を、最も長きに渡って前向きに観察を続けております。これも手弁当感覚で地道にご参加いただいている皆様のご尽力の賜物であると、重ねて深謝いたします。

本研究会開始時には、Brugada 症候群に関する本邦からのエビデンスは皆無であり、「特発性心室細動」の言葉すら周知されていない状況でしたが、2008 年に『QT 延長症候群と Brugada 症候群の診療に関するガイドライン』が日本循環器学会から発行され、本邦における Brugada 症候群の診断と治療の標準化が図られました。その後、本研究会からのエビデンスを中心として、本ガイドラインは 2012 年に部分改訂がなされ、Brugada 症候群診療の唯一のガイドラインとして機能しています。さらに、本邦にて発表された Brugada 症候群を中心とした特発性心室細動に関するエビデンスをもとに、『遺伝性不整脈の診療に対するガイドライン』として装いも新たに大幅に改訂され、2018 年度中に発行されることが決定しております。

この新ガイドラインには、本研究会から発表されたエビデンスも数多く採用されていることから、本研究会の存在価値は極めて高く、その役割はますます大きくなるものと確信しております。今後も、本研究会の活動が本邦の特発性心室細動研究の基軸となり、病態の理解、診断法、治療法の改良・開発の一助となれば幸いと考え、ここに第 14 回・第 15 回特発性心室細動研究会の発表演題論文集を刊行するとともに、本研究会の運営に対して一層のご協力をここにお願い申し上げます。

2017 年 12 月吉日